

高 銘暄氏 名誉博士学位贈呈式 総 長 式 辞

高銘暄中国人民大学法学院荣誉一級教授、中国法学会刑法学研究会名誉会長をお迎えし、多数のご来賓ご臨席の下、この名誉博士学位贈呈式を盛大に開催できますことは、我々の大きな喜びであり、また、誇りとするところです。

高教授は刑法学者として数々の卓越した業績をおさめられるとともに、中国人民大学において数々の要職を歴任され、大学運営においても大いに手腕を発揮されました。また、国内外の学会でも多くの要職を務められ、その発展に多大な尽力をされてきました。さらに、分野別中日民間交流のモデルともいうべき、日中刑事法學術交流を通して中日の学術・人材交流に大きな貢献を果たされてきたことは優れた成果として、中日両国において高く評価されています。

高教授は 1951 年に北京大学法学部を卒業後、中国人民大学大学院法学研究科刑法研究修士課程に進学、1953 年に同課程を修了した後、1983 年に同大学教授に就任し、刑法学の教育研究に従事するとともに多数の優れた著書、論文を発表し、中国刑法学の第一人者として高い評価を得ています。中国人民大学においては、法学院院長、法学院院務委员会主任などの要職を歴任し、2005 年には荣誉教授、2009 年には荣誉一級教授の称号を授与され、定年の定めなく大学での教育研究活動が保証されるなど、その功績と荣誉は大いに称えられています。

学外では 1954 年以来一貫して刑法典の制定、修正の事業に参画するほか、中国法学会刑法研究会の会長、中国法学会副会長などの要職を務められました。国外では刑法分野における世界最大の学会であり、フランスに拠点を置く国際刑法協会では要職を務められ、2004 年には北京にてアジアでは初となる、同協会の大会を開催することに成功されました。2015 年には、国内外における学術研究教育活動が世界的に高く評価され、イタリアに拠点を置く国際社会防衛学会から、刑事法分野のノーベル賞と言われ、法治精神の実現と人道的事業に多大な寄与をした者に授与さ

れる「チャーザレ・ベッカリーア賞（金賞）」を受賞されています。

1988年に発足した日中刑事法学术交流は今日に至るまで30年近く続いています。2001年の第7回大会において高教授が中国側の代表者に就任して以来、開催場所も全国規模になり中国主要大学の協力も格段に強化されるなど、一層の進化を遂げました。日中刑事法学术交流の学術討論会は、隔年で、中国と日本で交互に開催されてきましたが、中日関係が不安定になった際も、予定通り整然と開催されました。これは、中国刑法学の第一人者である高教授が、長年に渡り、日中刑事法学术交流に熱い情熱を持って積極的に関わっていることを両国の関係者が熟知しており、それが中国の学界や政府に厚い信頼感を抱かせているからに他なりません。このような恒常的な外国との分野別学术交流は、中国でも他に例を見ない稀有のものであり、中国国内における学術の発展と法治主義への歩みを促進した点で国内外から高い評価と厚い信頼を得ています。

高教授が初めて日本を訪問されたのは1993年に本学で開催された「ドイツ・東アジア刑法シンポジウム」に中国の代表として参加された際でした。その際に会の運営にあたった本学に強い親近感を抱いたことが、中国側の先頭に立って日中刑事法学术交流を強化、発展させる契機となったと伺っており、大変嬉しく思っています。

中国と早稲田大学との関係は古く、100年以上前の1899年に最初の中国人留学生を受け入れたのを嚆矢とし、1905年には「清国留学生部」を設立してさらに積極的に留学生を受け入れるようになりました。その後、制度的にはさまざまな変遷もありましたが、数多くの有為の中国人学生が早稲田大学に集い、「自由・独立」の校風の中で大いにその能力を伸張し、帰国後は母国の発展のために貢献するという良き伝統が形成され、長く受け継がれてまいりました。その中には中国共産党の創設者となる若き日の李大釗先生や陳独秀先生をはじめとして、中国の歴史に足跡を残す偉人たちが数多く含まれています。

現在も早稲田大学には2500名を超える中国人学生が在籍し、のべ150にも及ぶ協定を中国の大学や研究機関と締結し、活発な学術研究交流を展開しています。中

国人民大学との間でも、1999年に学術交流協定を締結して以来、研究者交流・学生交流が続けられています。このような交流の中から両国の友好関係の促進と、世界の平和に貢献する人材が陸続と輩出されていくことを大いに期待しています。

本日、中国との長い学術研究交流の歴史を持ち、人間力と洞察力を備えた真のグローバルリーダー育成を目指している早稲田大学が、中国随一の傑出した法学者であり、長年に渡り中日の学術交流・人材交流に大きな貢献を果たされてきた高銘暄教授に名誉博士号を贈呈させていただくことは、まことに意義深いものと思います。

最後になりますが、早稲田大学と中国人民大学の、また、中日両国の友好関係がますます発展することを、そしてまた、高銘暄教授のますますのご健勝とご活躍を祈念して、私の式辞を結ばさせていただきます。

ご静聴、有り難うございました。

以 上